

水越武写真展

大地への想い



ピンと張り詰めた緊張感が漂い、
限りなく美しく、
自然は凜とした尊厳を持って存在していた

「ホーク」インド 1979年

東京都写真美術館 2階展示室
2007年5月12日(土)～7月1日(日)

【水越武写真展「大地への想い」によせて】

東京都写真美術館では、日本列島そしてヒマラヤ、熱帯雨林、アラスカ、パタゴニアなど地球の生態系と生命の営みをひたむきに撮り続ける写真家、水越武の代表作169点を展覧する集成展を開催致します。地球規模で進む自然破壊や温暖化への警告が叫ばれる現在、水越武の写し撮った生命の多様性と美しさを表現する作品群は、見るものに深い感動を与えることでしょう。

【展覧会内容】

「生態系からみた地球」というテーマに基づき、地球の壮大な自然の営みと、垂直分布から見た日本列島のさまざまな生態系の様相を表現するカラー作品、そして水越武氏の写真家としての原点である穂高、ヒマラヤのモノクローム作品など、代表作を一堂に展覧する写真展です。本展は、水越氏の約40年に及ぶ写真家活動で撮影された秀作の数々から、さらに厳選した作品169点で構成され、まさに集成展と言うべき内容となっています。

水の誕生によって生命をもつ奇跡の惑星となった地球と、変化に富む多様な生態系をもつ日本列島を見つめ、森林や湿原の多彩な美しさ、そこに生息する動植物の驚くべき生態、その尊い価値を、フィルムに刻み込んできた水越武氏。本展は、見るものに深い感動を与える水越氏の静謐かつ豊穡な写真世界を一望する絶好の機会となるとともに、私たちの住む地球環境を再考する契機となることと確信いたします。

水越武氏は、1938年愛知県豊橋市に生まれ、20代の頃、山岳写真家・田淵行男氏の写真集『高山蝶』に感銘を受け写真の道に進むことを決意。田淵行男氏から山に対するひたむきな姿勢や対象を捉える洞察力を学びました。そして1971年に発表されたシリーズ「穂高」は、厳然たる山の神髄を示し、水越武の名を山岳写真界に深く刻印することになったのです。

日本や海外の山々を撮り続けるなかで、次第に水越氏の関心は山野に生息する動植物へと広がりを見せ、その視線は山頂から「森林限界」「原生林」へと移り、今では地球全体を取り巻く「生態系」が大きなテーマとなっています。『森林列島』などの近作は、地球規模で進む自然破壊への警告だけでなく、「自然の多様性こそが、地球を美しく彩り、豊かな表情を与え、美しく調和させる」という大地への想いを呈する作品として、見るものに深い感動を与えます。

【作品構成】

1) 奇跡の星・地球 - A Miraculous Planet: The Earth

ヒマラヤ (パキスタン、ネパール、ブータン、中国)

熱帯雨林 (ボルネオ、アマゾン、コスタリカ、ウガンダ、コンゴ)

イグアスの滝、パタゴニア、ギアナ高地、アンデス、バイカル湖、アラスカ、カナダ

多様性こそが地球を美しく彩り、美しく調和させ、地球の無限のリズムを守る。太陽の子であった地球は、水を持つことによって奇跡の惑星となった。その後創造と破壊を繰り返し、40 億年前には生命が誕生した。生命は進化と多様化を限りなく遂げることによって、人類を含めた現在の生物の姿となった。地球の多様性に富んだすべての生き物と、その生き物たちが造り出す多彩な生態系には、40 億年の地史が刻み込まれている。そして、地上のすべての生態系は有機的に繋がりを持っている。

2) 水の回廊・日本列島 - Water Corridors: The Japanese Archipelago

北アルプス、南アルプス、富士山、立山、大雪山、八甲田山、屋久島、知床、八ヶ岳、尾瀬ヶ原、阿寒、黒部溪谷、対馬、熊野灘、オホーツク、沖縄、八重山諸島

豊かな水に恵まれ、そのうえ水が美しいことは、日本列島の大きな特徴だ。山も、河も、湖も、森も、すべての生態系は、繊細な水の表情に彩られ、まばゆく瑞々しい。太平洋、日本海、オホーツク、東シナ海という個性の異なる四つの海に囲まれ、3700 余りの島から成る。日本海によってユーラシア大陸と隔てられ、太平洋に接している日本列島は、黒潮と親潮の影響を強く受け、特徴づけられる。南の太平洋から北上してくるアジアモンスーン帯の中にある夏季の雨と、シベリアから日本海を渡ってくる北西季節風の冬季の雪とによって、一年中すさまじい水資源がもたらされる。豊穡な水によって列島は多様な美しい森林に覆い尽くされている。

3) 天空のかおり・山岳 - Scent of the Heavens: Mountains

穂高

ヒマラヤ

空高く飛ぶ鳥や、夜キラキラと輝く星や月を眺めることが好きだった私は、成長とともに山に心を奪われ、山や自然と向き合う人生を歩むことになった。天に対するあこがれや夢を行動に移す山登りは、私の出発点であり、原点となるものである。一步でも高く、少しでも天に近づくことによって、太陽の光は強烈となり、空気はうすくなり、月や星の存在が確かなものとなる。そして天空のかおりが濃密となる。美しくも恐ろしい存在である凛々しい穂高も、成層圏に近い第三の極地ヒマラヤも、私にとって天のかおりを確認し、夢やあこがれを現実のものとする対象であった。

※展示総数 169点 大型プリントを中心とするカラー写真作品とモノクローム

【関連イベントのお知らせ】

水越武氏による展示解説

5月12日(土)、5月19日(土)、5月20日(日)、6月16日(土)、6月17日(日)

各回午後2時より開始します。

担当学芸員による展示解説

会期中の第1・第3金曜日午後2時より展示解説を行います。

解説: 渡邊和子(東京都写真美術館学芸員、事業企画課普及係長)

【開催概要】

展覧会名	水越武写真展「大地への想い」
会 場	東京都写真美術館 2階展示室
	2007年5月12日(土)～7月1日(日) 44日間
主 催	財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館
後 援	社団法人 日本山岳会
協 賛	株式会社ニコン／ニコンカメラ販売株式会社、 日本製紙株式会社／富士フイルムイメージング株式会社
協 力	文化堂印刷株式会社／岩波書店／株式会社アイデム／写真弘社／クレヴィス
開館時間	10:00～18:00(木・金は 20:00 まで)
休館日	毎週月曜日
観覧料	一般 800(640)円、学生 700(560)円、中高生、65 歳以上 600(480)円

【お問い合わせ】

東京都写真美術館

〒153-0062 東京都目黒区三田一丁目13番3号 恵比寿ガーデンプレイス内

URL <http://www.syabi.com>

■展覧会担当

渡邊 和子(わたなべ かずこ)

E-mail: k.sekiji@syabi.com 電話 03-3280-0034 FAX 03-3280-0033

■広報担当

事業企画課普及係

久代 明子(くしろ あきこ) / 伊藤 洋子(いとう ようこ)

E-mail: a.kushiro@syabi.com y.ito@syabi.com

電話 03-3280-0034 FAX 03-3280-0033

【水越 武(みずこし・たけし) 略歴】

1938 年、愛知県豊橋市に生まれる。中学時代から本格的に登山に取り組み、高校3年のときに登山種目で国体に出場。1958 年、東京農業大学林学科中退、京都の映画製作所で撮影助手を務める。京都の古書店で山岳写真家・田淵行男の写真集『高山蝶』と出会って写真家を志し、1965 年より田淵氏に師事。1971 年、個展「穂高」を契機に独立。以後、フリーランスの写真家として日本アルプス、ヒマラヤの山岳、日本の原生林などを撮影。1979 年 5 月から 4 ケ月間、カラコルム五大氷河学術踏査隊に参加、シア・カンリ(標高 7,422m)の登頂に成功。生態系の視点から、日本列島のみならず、世界の高峰、北米の森林、アフリカ、中南米、ボルネオの熱帯雨林などを取材。1980 年、フランス国立図書館がヒマラヤの作品を収蔵。1991 年には写真集『日本の原生林』で平成 3 年度日本写真協会年度賞受賞、1994 年には写真集『HIMALAYA』及び「ボルネオ」(『クォーク』誌掲載)で講談社出版文化賞を受賞。1999 年、写真集『森林列島』により第 18 回土門拳賞を受賞。現在、北海道在住。

● 主な展覧会

1971 年 「穂高」	銀座ニコンサロン
1973 年 「山で出会った動物たち」	富士フォトサロン
1981 年 「NATURE IN MY MIND」	プラハ(チェコスロバキア)
1982 年 「NATURE IN MY MIND」	アムステルダム(オランダ)
1983 年 「山の輪舞」	銀座ニコンサロン、高山市民文化会館
1986 年 「穂高の光と風の中で」	銀座ニコンサロン
1988 年 「森林限界」	ペンタックスフォーラム
1991 年 「原生林」	キヤノンサロン
1991 年 「ブナ VIRGIN FOREST」	パルコ(吉祥寺、松本、大分、札幌、津田沼)
1992 年 「日本の原生林」	ライカギャラリー(ドイツ)
1993 年 「天のかおり」	ペンタックスフォーラム
「水越武写真展」	豊橋市美術博物館
「自然へのまなざし」	豊田市文化会館
1994 年 「日本の原生林」	大町山岳博物館
「HIMALAYA」	銀座ニコンサロン
「ボルネオ熱帯雨林」	コダックフォトサロン
1995 年 「熱帯雨林ボルネオ」	板橋区立熱帯環境植物館
1996 年 「森への旅」	ペンタックスフォーラム
「熱帯雨林展」	山口県立山口博物館
1999 年 「森林列島」	ニコンサロン(銀座・大阪)
「森林列島」	土門拳記念館
2000 年 「私の穂高」	JCH フォトサロン
「熱帯雨林—危機に瀕する原生林」	ペンタックスフォーラム、地球環境パートナーシッププラザ
「千年物語、森は語る」	板橋区立エコポリスセンター
「今、地球を歩く」	豊田市美術館

2001 年	「森林列島 生態系から見た日本」	青梅市立美術館
	「穂高の風」	田淵行男記念館 (長野県豊科町)
	「イタリア北部の山村」	アイデムフォトギャラリー・シリウス
2002 年	「穂高の風」	ニコンサロン (新宿・大阪)
	「熱帯雨林」	穂高岳山荘
	「ヒマラヤ」	JCH フォトサロン
	「天然の蘭」	北鎌倉ワイツギャラリー
2003 年	「水の地球・森の列島」	京阪百貨店
2004 年	「HIMALAYA BIANCO E NERO LA LUCE DELLE GRANDI MONTAGNE」	イタリア国立トリノ山岳博物館
2005 年	「PHENOMENON OF BAIKAL」	中国・北京プレスセンター、蘇州中央図書館
	「生命のゆりかご 熱帯雨林」	ニコンサロン (銀座・大阪)
	「HIMALAYA BIANCO E NERO」	Whyte Museum of the Canadian Rockies (カナダ)
	「BAIKAL」	モスクワ近代美術館

● 主な出版物

1975 年	『槍・穂高』	山と溪谷社
1976 年	『白馬岳』	山と溪谷社
1983 年	『山の輪舞』	山と溪谷社
1986 年	『日本アルプスの花』	講談社
	『穂高 光と風』	グラフィック社
	『森林限界』	山と溪谷社
1990 年	『日本の原生林』	岩波書店
1991 年	『雷鳥 日本アルプスに生きる』	平凡社
	『ブナ VIRGIN FOREST』	講談社
	『森物語』	世界文化社 (文・高田宏)
	『山からの贈りもの』	講談社 (文・太田愛人)
1992 年	『夜明け』	丸善 (文・高田宏)
1993 年	『HIMALAYA』	講談社
1994 年	『森の色 春から夏』	朝日新聞社
1995 年	『熱帯雨林 BORNEO』	講談社
	『水物語』	DHC (文・高田宏)
1996 年	『森への旅』	小学館
	『カムイの森』	北海道新聞社
1998 年	『森林列島』	岩波書店
1999 年	『樹海 夢、森に降りつむ』	世界文化社 (文・高橋延清)
2001 年	『熱帯雨林』	岩波書店
2002 年	『天然の蘭』	小学館
2003 年	『世界遺産屋久島 多様性の回廊』	講談社

● 主な収蔵先

1980 年	フランス国立図書館
1993 年、1999 年	豊橋市美術博物館
1994 年、2000 年	豊田市美術館
1997 年	東京都写真美術館
1997 年	東京富士美術館
1998 年、2003 年	イタリア国立トリノ山岳博物館
1999 年	土門拳記念館
2000年	日本カメラ財団

「水越武写真展 大地への想い」展 プレス図版(1/2)
下記の作品図版を、記事掲載用としてデータにてご用意しております。



1



2



3



4



5



6



7

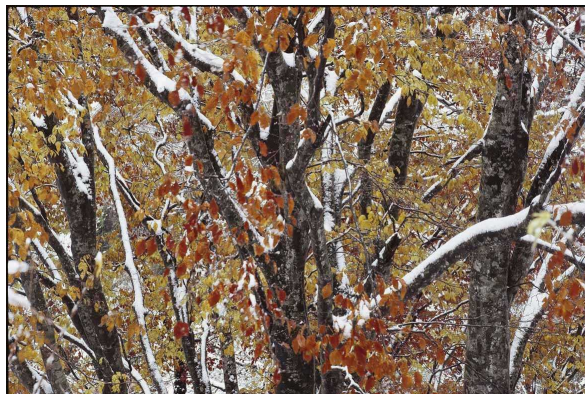


8

「水越武写真展 大地への想い」展 プレス図版(2/2)
 下記の作品図版を、記事掲載用としてデータにてご用意しております。



9



10



11



12



13



14

作品キャプション 1. チュクン・カン、ネパール 1975 年 2. ビアフォ氷河の氷河湖、パキスタン 1979 年 3. 風を見る、北アルプス 1970 年 4. ホーク、インド 1979 年 5. オオワシ、知床 2003 年 6. エンゼルの滝、ギアナ高地、ベネズエラ 1996 年 7. 雨期のアマゾン河河源流、エクアドル 1996 年 8. ラフレシア・プリセイ、ボルネオ 1994 年 9. 仲間川の河口に広がるマングローブの森、西表島 1996 年 10. 新雪のブナ林、飯豊山地 1988 年 11. ルウェンゾリ山、ウガンダ 2006 年 12. タブの林冠、飛島 1985 年 13. 大正池の朝、上高地、北アルプス 1975 年 14. イグアスの滝、ブラジル 1998 年 ※著作権表記は ©Takeshi Mizukoshi をお願いいたします

<掲載・取材のお問い合わせ、図版のご請求>

東京都写真美術館 事業企画課 普及係 久代 a.kushiro@syabi.com 伊藤 y.ito@syabi.com
 (電話) 03-3280-0034 (FAX) 03-3280-0033

<掲載に際してのご注意>

1. 図版はトリミングできません。あらかじめご了承ください 2. 図版をご掲載の際は、必ずキャプションもいっしょにご記載ください 3. 掲載前にゲラを拝見させて頂きたくご配慮をお願い申し上げます 4. お渡しした図版は、本展の紹介以外での目的では使用できません。このことに関して発生したトラブルについて当館は一切責任を負いかねます 5. 作品図版は実際の展示と異なる場合があります。あらかじめご了承下さい。